

2. 競技経験

本調査では、オリンピックの競技経験に関して、競技を開始してからオリンピックに出場するまでの年齢、オリンピックに出場した競技以外の競技経験、競技の開始と継続の要因についてたずねた。競技の年齢では、「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」から段階的にステップアップして大会レベルがあがり、「はじめてオリンピックに出場した年齢」までの平均的な年数や、夏季大会と冬季大会の違いなどをみている。

オリンピックに出場した競技以外の経験では、実施した競技と年齢、組織の形態、競技レベルを追った。特に、中学校期以降の運動部活動や大学での体育会運動部における他競技の経験は、競技力の基盤をつくりながら、競技転向に順応する多様な運動能力を培ったことを示している。

また、競技経験の心理的な側面を知るために、競技を始めたきっかけと、継続の要因についてもたずねた。

2-1 各年齢における競技経験

表 8 に、「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」から、「はじめてオリンピックに出場した年齢」の過程を示した。「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」をみると、回答を得た 436 人のうち、最年少は男女ともに 0 歳、最高齢は男性で 30 歳、女性で 25 歳であった。0 歳と回答したオリンピックの実施競技は男女とも「水泳」であることから、実際には競技を開始したというよりも民間スイミングクラブ等で競技環境に触れた年齢と考えられる。最も開始が遅かった競技は、男性が「クレー射撃」で女性が「ボブスレー」であった。開始年齢の全体平均は 13.3 歳であり、男性の平均は 14.1 歳、女性の平均は 11.7 歳と、女性の方が競技の開始が早いことがわかる。

大会出場の年齢をみると、「都道府県大会に出場した年齢」の全体平均が 14.9 歳、「日本選手権大会に出場した年齢」が 18.0 歳であり、それぞれ競技開始から 3~6 年の競技経験により実績が高まるとともに、大会レベルが上昇していることがうかがえる。競技により選考基準は異なるものの、日本選手権大会あるいは国際大会での実績が評価されてオリンピック代表選手となる。なお、都道府県大会出場の最年少の競技は、男性が「柔道」で女性が「スケート」であり、日本選手権出場の最年少の競技は、男性が「スキー」で女性が「水泳」であった。「はじめてオリンピックに出場した年齢」の全体平均は 23.3 歳であり、男性の平均は 23.8 歳、女性の平均は 22.4 歳であった。競技の開始が早い女性は、オリンピック出場の年齢も低かった。

また、「最初にオリンピック出場を目標にした年齢」という心理面をみると、男性平均は 19.0 歳、女性平均は 17.5 歳であった。このことから、オリンピック出場を意識するのは、日本選手権大会にはじめて出場し、オリンピック出場が現実味を帯びる頃に多いと推測される。一方で、最年少で 4 歳、最年長で 38 歳でオリンピック出場を目標とする例もあった。

表 8 競技経験の過程における年齢

(歳)

		平均年齢	最年長	最年少
オリンピックに出場した競技を開始した年齢	全体 (n=436)	13.3	30	0
	男性 (n=302)	14.1	30	0
	女性 (n=134)	11.7	25	0
都道府県大会に出場した年齢	全体 (n=395)	14.9	35	5
	男性 (n=269)	15.6	35	5
	女性 (n=126)	13.6	26	5
日本選手権大会に出場した年齢	全体 (n=420)	18.0	38	10
	男性 (n=295)	18.8	38	10
	女性 (n=125)	16.3	30	10
最初にオリンピック出場を目標にした年齢	全体 (n=428)	18.5	38	4
	男性 (n=297)	19.0	38	4
	女性 (n=131)	17.5	34	5
はじめてオリンピックに出場した年齢	全体 (n=436)	23.3	44	14
	男性 (n=302)	23.8	44	15
	女性 (n=134)	22.4	38	14

次に、競技経験の過程を夏季大会と冬季大会で比べた（表 9）。「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」から「最初にオリンピック出場を目標にした年齢」までの平均年齢は、いずれも男女とも夏季大会出場者が冬季大会出場者を上回る。冬季大会の方が競技を開始した年齢が若い、「はじめてオリンピックに出場した年齢」は両大会での差はみられなかった。

表 9 夏季・冬季大会別の競技経験の過程における年齢

(歳)

			平均年齢	最年長	最年少
オリンピックに出場した競技を開始した年齢	夏季	男性 (n=245)	14.5	30	0
		女性 (n=102)	11.9	20	0
	冬季	男性 (n=56)	12.4	27	2
		女性 (n=32)	11.0	25	3
都道府県大会に出場した年齢	夏季	男性 (n=218)	15.9	35	5
		女性 (n=98)	13.7	24	6
	冬季	男性 (n=50)	14.0	24	6
		女性 (n=28)	13.3	26	5
日本選手権大会に出場した年齢	夏季	男性 (n=241)	19.1	38	14
		女性 (n=96)	16.4	30	10
	冬季	男性 (n=53)	17.2	24	10
		女性 (n=29)	15.8	26	12
最初にオリンピック出場を目標にした年齢	夏季	男性 (n=240)	19.2	38	6
		女性 (n=100)	17.8	34	5
	冬季	男性 (n=56)	18.1	32	4
		女性 (n=31)	16.3	30	5
はじめてオリンピックに出場した年齢	夏季	男性 (n=245)	23.8	44	17
		女性 (n=102)	22.2	38	14
	冬季	男性 (n=56)	23.5	32	15
		女性 (n=32)	22.9	34	15

※夏季・冬季の両大会に出場した男性 1 名の回答は含まない。

表 10 ではオリンピックが競技を開始してからオリンピックに出場するまでの年数に着目し、その差をみた。回答を得た 436 人の「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」と「はじめてオリンピックに出場した年齢」の差の平均は 10.0 年で、男性の平均が 9.7 年、女性の平均が 10.7 年であり、オリンピック出場までは約 10 年の経験が必要であった。出場までの年数が 1 年であったのは「水泳」「ボート」「カヌー」「ボブスレー」と複数の競技でみられ、最高の 28 年は「馬術」であった。同様に、夏季大会と冬季大会への出場者の競技開始から出場までの平均年数をみると、冬季大会がオリンピック出場まで 2 年ほど長かった（表 11）。

表 10 競技開始からオリンピック出場までの年数 (年)

	平均年数	最大年数	最少年数
全体 (n=436)	10.0	28	1
男性 (n=302)	9.7	28	1
女性 (n=134)	10.7	27	1

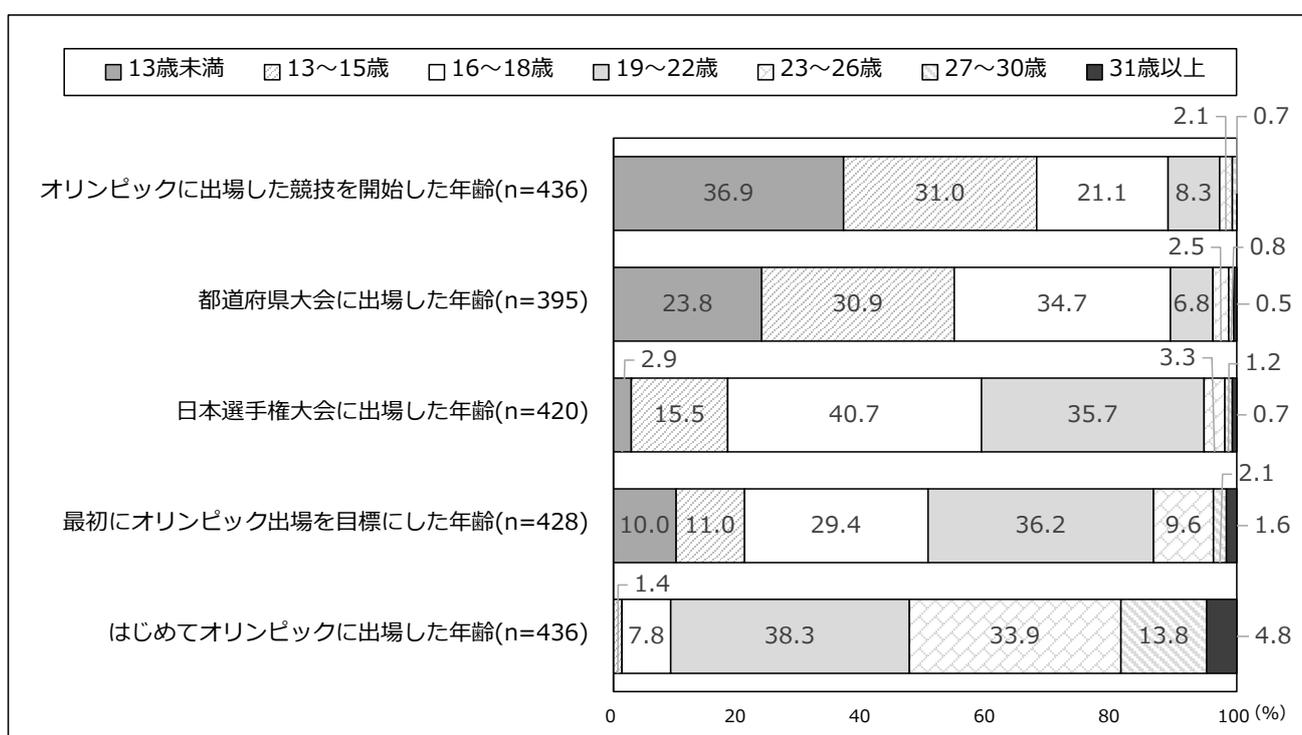
表 11 夏季・冬季大会別の競技開始からオリンピック出場までの年数 (歳)

		平均年数	最高齢	最年少
夏季	男性 (n=245)	9.4	28	1
	女性 (n=102)	10.3	26	1
冬季	男性 (n=56)	11.1	22	1
	女性 (n=32)	11.9	27	3

※夏季・冬季の両大会に出場した男性 1 名の回答は含まない。

図 3 に、「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」から「はじめてオリンピックに出場した年齢」までを年代別に示した。「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」では、13 歳未満の割合が 36.9%と最も高く、次いで 13～15 歳の 31.0%と、15 歳までに 6 割以上のオリンピックが競技を始めていた。また、年代が上がるにつれて競技大会のレベルも高まることが読み取れる。「はじめてオリンピックに出場した年齢」は 19～22 歳の 38.3%が最も多く、次いで 23～26 歳の 33.9%だった。「オリンピックに出場した競技を開始した年齢」の 31 歳以上と、「はじめてオリンピックに出場した年齢」の 13 歳未満には回答者がいなかった。

図 3 競技経験の過程の年代別割合



2-2 オリンピックに出場した競技以外の競技経験

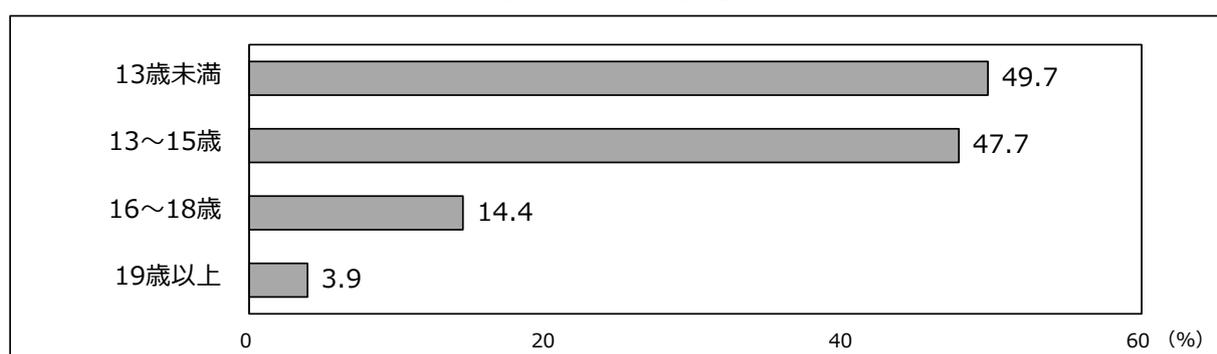
オリンピックに出場するまでの過程において、自身がオリンピックに出場した競技以外での競技経験をたずねた。他競技の実施経験を有するのは264人で、本調査への回答者473人の55.8%にあたる。このうち、半数を超える153人がオリンピック出場競技とは別の競技を1つ実施していた(表12)。2競技以上では、競技数が増えるにつれて実施者数は減るものの、4競技以上を実施していたオリンピックもいた。多様な競技に対応できるオリンピックの運動能力の高さがうかがえる。

表12 オリンピックに出場した競技以外の実施競技数 (n=264) (人)

実施競技数	1競技	2競技	3競技	4競技	5競技	6競技
他競技実施者	153	72	29	5	3	2

図4に、自身のオリンピック出場競技とは別に1競技を経験していた153人の実施時期を年代別に示した。実施時期の割合が高かったのは「13歳未満」49.7%と「13～15歳」47.7%であり、多くは少年期から何らかのスポーツに触れていたといえる。また、早い年代からの競技実施は、2競技以上を実施していた者にも共通していた。1競技を実施していた者のなかには、「13歳未満」「13～15歳」「16～18歳」「19歳以上」のいずれかの年代区分のみ実施して当該競技をやめたケースが大半であるが、「13歳未満」から「13～15歳」や「16～18歳」まで同一競技を継続したり、「13歳未満」で実施した後に「13～15歳」は休止し、16歳以上で再度同じ競技を実施したりする例もみられた。

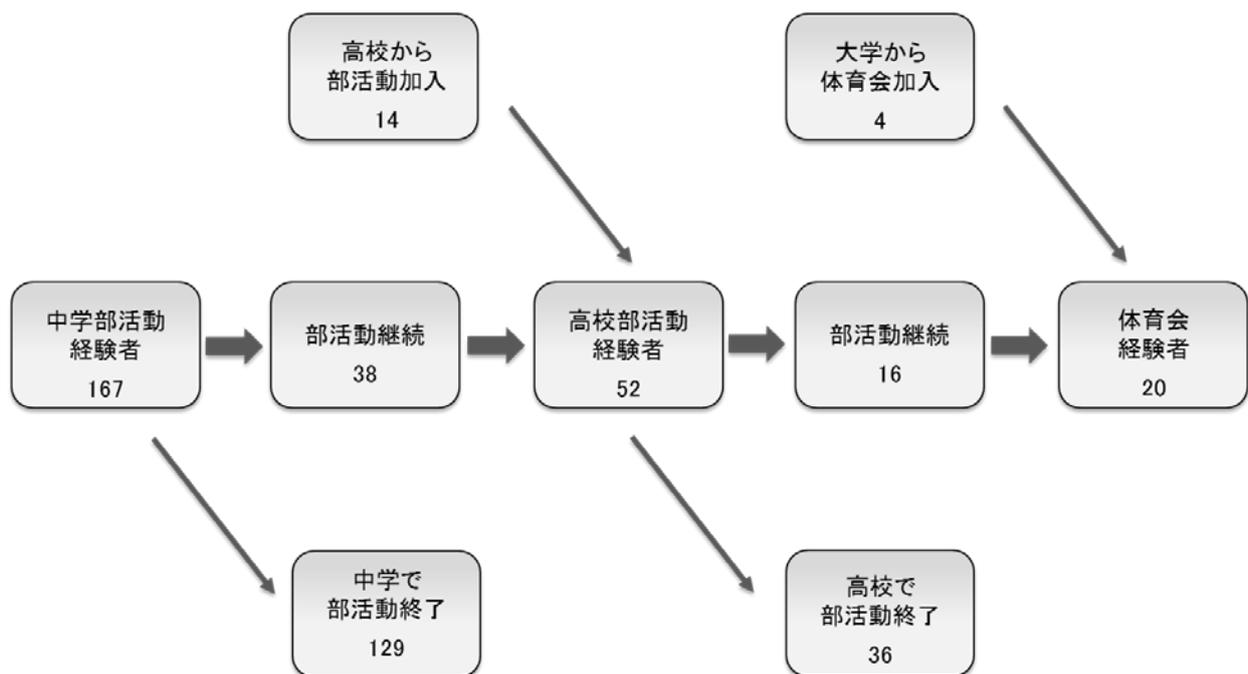
図4 オリンピック出場競技以外に1競技を実施した年代(複数回答)



次に、オリンピックに出場した競技以外の経験につき、各年齢期において実施した形態が「運動部活動・体育会」と回答した者の変遷をみた（図 5）。他競技の経験がある 264 人のなかで、中学校期に運動部活動に参加していたのは 167 人であった。このうち、22 人は同時期に複数の運動部活動を体験していた。中学校期で運動部活動を休止したのは 129 人で、残りの 38 人は高校期でも部活動を継続していた。このうち 15 人は中学校期とは異なる競技を実施した。高校期では、新たに部活動に参加した 14 人を合わせて 52 人が運動部活動を体験しており、うち 3 人は複数の運動部活動を実施した。大学体育会まで継続したのは 16 人で、うち 2 人は高校期とは異なる競技を実施した。大学で初めて体育会に参加した 2 人と、中学校期に運動部活動に参加し高校期は休止したが、大学から体育会に参加した 2 人（ともに中学校期とは別競技）を合わせて 20 人が大学体育会に所属した。これらの「運動部活動・体育会」経験者には、いずれかの年齢期においてオリンピック出場競技以外の競技で全国大会および国際大会に出場した実績をもつ者が 24 人いた。

図 5 中学・高校運動部活動および大学体育会でのオリンピック出場競技以外の競技経験 (n=167)

(人)



以下、回答数が多かった夏季・冬季の上位 3 競技について、自身の出場競技と運動部活動や体育会で実施した他競技と出場した大会レベルをみた。「大会レベル」は、「1」市町村大会以下、「2」都道府県大会、「3」全国大会、「4」国際大会で、「-」は未回答である。

表 13 オリンピック出場競技と「運動部活動・体育会」実施競技（水泳, n=16）

出場競技	No.	中学 運動部活動	大会 レベル	高校 運動部活動	大会 レベル	大学 体育会	大会 レベル
水泳(n=16)	1	野球	1	体操	3	体操	1
	2	陸上競技	2	陸上競技	1		
	3	柔道	1				
		バドミントン	1				
		サッカー	1				
	4	体操	1				
		陸上競技	1				
	5	バレーボール	1				
		陸上競技	2				
	6	陸上競技	2				
	7	陸上競技	2				
	8	陸上競技	2				
	9	陸上競技	1				
	10	陸上競技	1				
	11	野球	1				
	12	野球	1				
13	ソフトボール	1					
14	テニス	2					
15	バスケットボール	-					
16	体操	-					

夏季競技のうち、最も回答数の多かった「水泳」16人のうち、半数が「陸上競技」を経験していた。また、中学校期の運動部活動で4競技を実施した者もいる。

表 14 オリンピック出場競技と「運動部活動・体育会」実施競技（ボート, n=12）

出場競技	No.	中学 運動部活動	大会 レベル	高校 運動部活動	大会 レベル	大学 体育会	大会 レベル
ボート(n=12)	1	バスケットボール	2	バスケットボール	2		
		相撲	2				
		柔道	2				
	2	陸上競技	2	陸上競技	2		
		野球	1				
	3	バレーボール	2	水泳	2		
		水泳					
	4	野球	2	山岳	-		
	5			山岳	-		
	6			剣道	-		
	7	野球	1				
	8	バスケットボール	1				
テニス		1					
9	陸上競技	1					
	陸上競技	2					
10	野球	1					
11	バスケットボール	1					
12	バスケットボール	2					

「ボート」に出場した 12 人のうち、半数が中学校期の運動部活動で 2 つ以上の複数競技を経験していた。また、大学体育会への加入者はいなかった。

表 15 オリンピック出場競技と「運動部活動・体育会」実施競技（バレーボール, n=11）

出場競技	No.	中学 運動部活動	大会 レベル	高校 運動部活動	大会 レベル	大学 体育会	大会 レベル
バレーボール(n=11)	1	陸上競技	2				
		野球	1				
	2	水泳	1				
		陸上競技	3				
	3	バスケットボール	1				
		陸上競技	1				
	4	陸上競技	2				
	5	陸上競技	1				
	6	陸上競技	1				
	7	バスケットボール	1				
	8	バスケットボール	1				
9	水泳	1					
10	卓球	1					
11	陸上競技	-					

「バレーボール」に出場した 11 人のうち、中学校期の運動部活動で球技を経験したのは 5 人であった。高校期以降に運動部活動等で他の競技を実施した者はいない。

表 16 オリンピック出場競技と「運動部活動・体育会」実施競技（スキー、n=17）

出場競技	No.	中学 運動部活動	大会 レベル	高校 運動部活動	大会 レベル	大学 体育会	大会 レベル
スキー(n=17)	1	体操	-	体操	-	体操	-
	2			陸上競技	1	陸上競技	1
	3	陸上競技	3	陸上競技	3		
	4	陸上競技	2	陸上競技	2		
	5	野球	2	野球	2		
	6	バスケットボール	1	テニス	1		
	7			陸上競技	3		
	8	陸上競技	2				
	9	バレーボール	1				
	10	陸上競技	3				
	11	陸上競技	2				
	12	陸上競技	1				
	13	陸上競技	1				
	14	陸上競技	1				
	15	野球	1				
	16	バスケットボール	1				
	17	水泳	1				

冬季競技で最も回答数の多かった「スキー」17人のうち、11人が「陸上競技」を経験し、全国大会へ出場した者もいた。

表 17 オリンピック出場競技と「運動部活動・体育会」実施競技（アイスホッケー、n=9）

出場競技	No.	中学 運動部活動	大会 レベル	高校 運動部活動	大会 レベル	大学 体育会	大会 レベル
アイスホッケー(n=9)	1	ソフトボール	1	ソフトボール	1		
	2	野球	1				
		サッカー	1				
	3	陸上競技	2				
	4	バレーボール	2				
	5	野球	1				
	6	バレーボール	1				
	7	バドミントン	1				
	8	バスケットボール	1				
9	バスケットボール	1					

「アイスホッケー」に出場した9人のうち、8人がチームスポーツを経験していた。

表 18 オリンピック出場競技と「運動部活動・体育会」実施競技（ボブスレー、n=8）

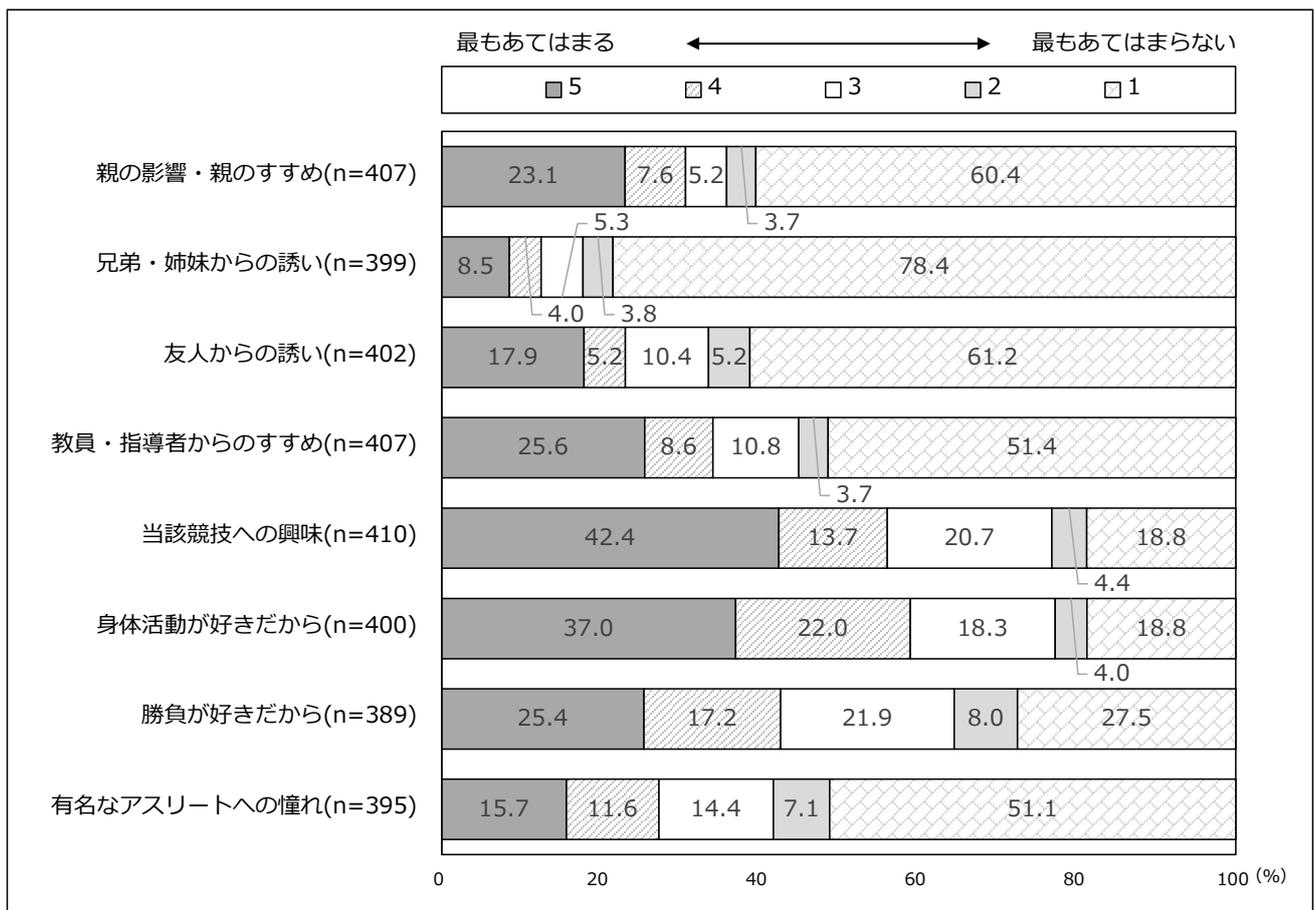
出場競技	No.	中学 運動部活動	大会 レベル	高校 運動部活動	大会 レベル	大学 体育会	大会 レベル
ボブスレー(n=8)	1	陸上競技	4	陸上競技	4	陸上競技	4
		ソフトボール	1				
	2	陸上競技	4	陸上競技	4	陸上競技	4
	3	陸上競技	4	陸上競技	4	陸上競技	4
	4	陸上競技	3	陸上競技	3	陸上競技	3
	5	陸上競技	3	陸上競技	3	陸上競技	3
	6	陸上競技	3	陸上競技	3	陸上競技	3
	7			陸上競技	3	陸上競技	3
8	陸上競技	2					

「ボブスレー」に出場した8人は全員が陸上経験者で、1人を除き大学体育会まで継続していた。また、そのほとんどが全国大会以上の高い競技実績をもっていた。

2-3 競技の開始と継続の要因

オリンピックが競技を始めた要因を、「最もあてはまる」から「最もあてはまらない」までの5段階評価でたずねた。調査項目ごとに回答数は異なるものの、最も回答数の多かった「当該競技への興味」に「最もあてはまる」と回答したオリンピックは42.4%にのぼった(図6)。以下、「最もあてはまる」の割合が高かったのは、「身体活動が好きだから」(37.0%)、「教員・指導者からのすすめ」(25.6%)、「勝負が好きだから」(25.4%)と続く。ただし、「最もあてはまる;5」と「あてはまる;4」の二つを加えると、「身体活動が好きだから」(59.0%)、「当該競技への興味」(56.1%)、「勝負が好きだから」(42.6%)の順になり、本人の内発的なモチベーションに関わるものが競技を開始した要因の上位を占めた。一方、「最もあてはまらない」の割合が高かったのは、「兄弟・姉妹からの誘い」(78.4%)、「友人からの誘い」(61.2%)、「親の影響・親のすすめ」(60.4%)、「教員・指導者からのすすめ」(51.4%)と他者からの勧誘を要因とする項目においていずれも半数を超えた。

図6 オリンピック出場競技を開始した要因(複数回答)



次に、オリンピックが競技を継続した要因を、「最もあてはまる」から「最もあてはまらない」までの5段階評価でたずねた。「最もあてはまる；5」をみると、74.8%の「記録・競技会への挑戦と目標達成」74.8%が最も高く、以下「競技技術や身体能力の向上」(56.7%)、「競技が楽しい」(51.8%)、「勝負が好き」(38.3%)、「周囲の期待にこたえたい」(38.0%)と続いた(図7)。一方、「最もあてはまらない；1」をみると、「収入が得られる」が71.5%と他の項目を大きく引き離し、次いで「名声をあげたい」が24.4%だった。これをみると心理的に外発的報酬と呼ばれる「収入が得られる」や「名声をあげたい」は、モチベーション傾向が低いことがうかがえる。

図7 オリンピック出場競技を継続した要因(複数回答)

